

「死生観と信仰が裏付け」

龍谷大「臨床
宗教師」研修
東北大学院准教授が講演



龍谷大大学院の臨床宗教師研修で講演する高橋原・東北大大学院准教授

龍谷大大学院の「臨床宗教師」研修として行われ、一般にも公開される特別講義が1日、京都市下京区の龍谷大大宮学舎で開かれた。東北大大学院で研修を担当している高橋原准教授（宗教心理学）が「宗教者

に求められる心のケア」と題して講演した。臨床宗教師は、宗教や宗派の違いを超え、被災地や医療現場などで「傾聴」を通じた心のケアに当たる宗教者。布教や勧誘は一切行わない。東日本大震災を機

に、東北大大学院が平成24年に養成を始め、龍谷大大学院などに広がった。

高橋原准教授は、臨床宗教師の特徴について「他の専門職とは違い、死生観と信仰に裏付けられた死への『答え』を持っている。すべての苦悩を自分で背負わず、神仏に委ねている」と解説した。

その上で「心のケアを『する』のでなく、生身の相手に宗教者として接することが、結果として相手のケアになっている」と指摘した。

また、府が自殺対策に臨床宗教師を活用する方針を固めたことに関して「震災関連以外で臨床宗教師が活躍する大きな一歩になる。宗教・宗派を超えた協力の姿勢をいかに取れるかが試されている」と語った。